

会 議 録

会議の名称	令和 8 年度 第 1 回飯塚市高齢社会対策推進協議会専門委員会
開催日時	令和 8 年 6 月 25 日（木）13：56～15：06
開催場所	飯塚市役所 本庁 1 階多目的ホール
出席委員	岩見委員長、多田委員、澤田委員、上田委員、靱井委員、原田（琴）委員、 木山委員、田中委員
会議概要	1 開会 2 報告事項 （1）副委員長の指名について （2）飯塚市の介護保険の現状について （3）飯塚市高齢者実態調査結果報告について ①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査報告書 ②在宅介護実態調査報告書 ③居所変更実態調査・介護人材実態調査報告書 （4）第 10 期飯塚市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画について 2 その他 （1）次回開催日程について ・令和 8 年度第 2 回専門委員会 令和 8 年 7 月 30 日（木）午後 2 時から ・令和 8 年度第 2 回協議会 令和 8 年 8 月 27 日（木）午後 2 時から 場所：飯塚市役所 1 階 多目的ホール 4 閉会
会議資料	資料 1 副委員長の指名について 資料 2 飯塚市の介護保険の現状 資料 3 飯塚市高齢者実態調査結果報告について 資料 3-1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査報告 資料 3-2 在宅介護実態調査報告 資料 3-3 居所変更実態調査・介護人材実態調査報告 資料 4 第 10 期飯塚市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画について 資料 5 専門委員会日程予定表
公開・非公開 の別	① 公開 2 一部公開 3 非公開 （傍聴者 0 人）
その他（非公 開理由等）	

会 議 録

会議内容	① 報告事項 1：副委員長の指名について ② 報告事項 2：飯塚市の介護保険の現状について A 委員：飯塚市の給付月額が大きいのは在宅医療が多いからという説明でしたが、国が地域や自宅で暮らすことを進める中、在宅サービスの利用が多いならばいいことではないかと思いましたが、在宅サービスを多く利用すれば給付費も多くなるということでしょうか。 事務局：給付費が多いからダメなのではなく、重度障害や重度の疾病があっても施設から地域へ移行してサービスが継続して受けられるような体制があるならば、地域包括ケアシステムが目指す最も望ましい姿ですし、在宅でのサービス利用率が高いからいけないというわけではないです。 ただ、他の自治体より平均した受給額が高いのは、在宅で介護せざるを得ないために限度額いっぱいを使う必要があるのか、この統計からは測ることができませんので見定めていく必要があると思います。 B 委員：施設サービスと居住系サービスが分かれています、居住系サービスとは住宅型などですが、人口により施設の数が違うと思いますが、飯塚市は基準の中でも多いと思いますが、それを考慮したうえでの分析でしょうか。 事務局：そちらも考慮して介護保険として利用された給付費には施設利用も含まれています。ただ、施設利用の場合は飯塚市の被保険者が対象ですので、近隣市町在住の利用者はこの数値には入っていませんが、その状況も含めて数値に反映されています。 B 委員：それを伺いたいわけではなく、施設の絶対数が増えてくると、利用人数や給付率も施設に対して上がるので、飯塚市は近隣市町に比べて数が多いので、その背景を含めた数字がこれなのか。ベースが違っているとどうしても数字が上がってくると思うのですが、どうでしょうか。 事務局：近隣市町と施設数の比較はしておりませんので、考慮が必要かと思いますが、あくまで国の示した受給率の基準の中で、近隣と比較しているという形です。 C 委員：在宅診療をしています、福岡県でも有数な看取り数です。看取りを行うためには、医療費もかかりますし、ヘルパーの費用や在宅の機材にもお金がかかりますし、国の方針に沿えば当然お金が
------	--

会 議 録

かかりますので、一人あたりの受給額を抑制しようとか介護費用を抑制しようとするれば、矛盾が生じます。議論がなされる場所だと思います。

③ 報告事項 3：飯塚市高齢者実態調査結果報告について

④ 報告事項 3-1：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査報告書

⑤ 報告事項 3-2：在宅介護実態調査報告書

⑥ 報告事項 3-3：居所変更実態調査・介護人材実態調査報告書

D 委員：調査の単純集計でどの項目が多いということはわかるのですが、クロス集計をしたと書いてあるのですが、設問項目同士とのクロス集計はされましたか。

事務局：設問同士というと年齢ではなくそれぞれの設問間という形かと思います。一部、幸福度のクロス集計やタイプ別では、高齢者の閉じこもり傾向の強い方がどのような回答をされているのかについても集計をしています。膨大なために今回は割愛していますが、課題の分析は掘り下げて行きたいと思っています。

D 委員：調査計画の中ではどこの項目同士が関連しているのか、調査段階で計画するわけですから、そこをクロス集計を出して調整しながら分析しないといけないため、まずは、クロス集計を出していただきたい。

また、自由記述についての分析結果はありますか。

事務局：自由記述につきましては、どういう回答が多いのかカテゴリ分けの分析を進めているところになります。自由記述はすべての方が回答されるわけではありませんが統計の重要な基礎資料になりますので、どこのカテゴリが多いのかといった分析はご提示できると思います。

D 委員：自由記述の件数についてどこが多いのかといったことではなく、少ない記述の中でも重要な点がありますので、自由記述の中での関連性などもあわせて分析していただきたい。

E 委員：今後、計画の策定を進めていくうえで入れていただきたいことについてです。元気な方を対象にした調査で転倒についての項目がありました。フレイルや骨格系に関連することだと思います。この方たちをどう予防していくのかという視点が大事なことで、15 ページの「外出を控えている」という方の理由が、足腰などの痛みとか、外での楽しみがないといった回答が多かったので、こういった方たちのための施策をどう作れるのかが飯塚市にとっては重要だと思うので、身体のことと、行く目的と手段を勘案し

会 議 録

て次期計画を作っていないといけません。

外に出てみたい方が3割弱いるのであれば、出たいと思っている方を必ず出られるようにしないと、ますます悪化します。

そのような視点でまちづくりをしていただきたい。

介護をする側としても、高齢者が増えてきているので、パートナーの介護のために自分が出たくても外に出ることができないとか、そういう支援の視点ももってもらえると、外に出る機会も自分の体のケアする機会も増えるので、こうした発想が自立支援重症化防止につながると思います。

F 委員：とても大事な視点をありがとうございます。資料3-3で、重症になったり、要介護度が上がった方どこに居所変更されたのかわかるでしょうか。

事務局：手元の資料では回答ができませんが、国の集計では確認できますので、またご報告をさせていただきます。

⑦ 第10期飯塚市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画について

⑧ その他：次回開催日程

- ・令和8年度第2回専門委員会 令和8年7月30日(木)午後2時から
- ・令和8年度第2回協議会 令和8年8月27日(木)午後2時から